



第44号
PTAだより
たきのおと

大阪府立箕面高校
P.T.A.
箕面市牧落4-8-66
TEL072-721-7091
http://www.osaka-c.ed.jp/minoo/



PTA会長
生駒 勝

楽しい高校生活を

今年度、箕面高校のPTAA会長を務めさせていただきました。PTAA役員は3年目となります。これまでの2年間で経験したことを生かしつつ、みなさまのお力をお借りし、それぞれ役割を協力しながら精一杯頑張っています。よろしくお願ひします。一昨年、息子が入学し、同じ中学校出身者が息子を含め2人でした。周りのことが全くわからないままでしたが、偶然

にも、当時の会長は同じ事務所で働く先輩でPTA活動の内容を説明していただき、これを機に色々な方との出会いを求められると感じ受けました。この2年間で感じたことは、箕面高校が目指す学校像に対し、各生徒が自分出来ることを考えて実践していただくことです。先生方の教えに対して素直に受けとめ、その先を考えて行動しているところを見て、保護者としても感心させられます。その反

面、自主性についてはもっととアピールしていくべきではないか?と思います。自分の考えを友達や先生に伝えることは簡単なようで難しいものです。しかし、今後の社会生活に必ず生きてきます。自分の思いが相手に伝わらず、苦勞することがたくさん出てきます。だからといって失敗を恐れては何も出来ないで、勇気をもって頑張りたいと思います。また、息子が前期生徒会役員になり、親として楽しみや不安を抱えながらも、あたたかく見守っていきたいです。いままでの人生で高校生活が一番楽しかった。と感じてもらえるようにPTAとして学校活動のサポートをしていきたいと思います。これから1年間という短い時間ではありますが、実行委員会のメンバーをはじめ、学校、先生方、保護者の方々と一緒に楽しみなながら和気藹々で行えるように取り組んでいきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。



学校長
日野田 直彦

自由と守破離

箕面高校は、自由の気風を重んじ、自主自律を尊重する学校です。そしてそれを表現するのが、日々の部活動や体育祭・文化祭などの行事になります。この行事に関しては、大阪府下においても最も素晴らしいものの一つだと感じています。その中で、先輩や先生方から様々なことを学べる学校でもあります。

また一方で生徒、保護者、教員の願ひは、「まずは基礎的な学力を身に付けること」でもあります。この「学力」と表題の「自由」「守破離」を特に確認したいと思

つております。この流動性の高い現代社会において、箕面高校で身に付けるべきことは、「単に勉強する」だけでなく、その前提として、「一人前の大人になる」ための力を付けることだと信じています。具体的には、①生活リズムを整えること、②食生活に偏りが無いこと、③大人としてのマナーを身に付けること、ではないでしょうか?基本的なことだからこそ、大人になる過程である高校時代にしっかりと定着させてほしいと願っております。「守破離」とは日本の武道・芸能の世

界の言葉です。「型を守り、型を破り、型から離れる。」もう少し具体的に言うとう、「型(基礎基本)をまず身に付け、それを自分なりにアレンジし、最後はその型から自由になる。」変化の大きい時代だからこそ、まずは基本に忠実になり、徹底した分厚い「基礎」がなくてはいろいろな変化に対応できません。それはまさに「建物と同じかもしれません。自由であることはとても難しいことでもあります。その「自由」を獲得するためにも、箕面高校において分厚い「基礎」を身に付けてほしいと願っております。そのために全教職員一丸となって日々努力していきます。PTAとの連携があつて箕面高校は発展してきました。ぜひ今後ともよろしくお願ひいたします。

英語 太 骨



本校は、現在急速に進むグローバル化が進展する中で、「正解がない時代に、一つの解を提案し続ける」生徒たちを育てたいと思っております。そのためには、我々教員がチャレンジすること、これをテーマに動き出しております。昨年度より大阪府の「骨太の英語力養成事業」の指定校となり、海外大学への進学に耐えうる英語力の養成とともに、グローバル社会で必須とされる力の育成を進めています。その力とは、ロジカル・クリティカル思考に代表される思考力や、プレゼン・ディベートなどの表現力、ファシリテーションなどのチーム・ビルディング等、今までの日本の学校になかった新しい力を定着させることをめざしております。

具体的には、本校の先生方との協働開発を前提に、
①BelritzとのTOEFL課外講座の開講
②マサチューセッツ工科大学との提携による短期留学の改編と充実
③ハーバード・スタンフォード大学との提携・協力
④ホワイトボードを活用したミーティングなどのファシリテーション力の向上
⑤プログラミング教育の本格導入
⑥教員用ICT機器の充実と活用
⑦英語の授業におけるe-learning systemの一部導入などを進めています。実績としては、昨年度より進めている結果として、TOEFL iBTのトレーニングを受けた高校二年生のスコア(120点満

◆TOEFL iBTとは
大学レベルの英語を使用および理解する能力を測定するテスト。英語4技能の各スキルを組み複せて、学術的な課題を遂行する能力も評価するインターネットベースのもの。スコアは120点満点(4技能:各30点)で、テスト時間が4時間半と極めてハードであり、英語のセンター試験の9割がTOEFL iBTスコア40点に相当する。



点)は、最高92点をとる生徒が出るなど、目覚ましい成果を出してくれています。この新しい取組を常に本校の先生方と協働で進めることで、国際教養科・普通科問わず少しずつ、全ての学科・教科・学年に還元されるように進めているところ です。

ある調査では85%以上の保護者の方が「受験をしたことで子どもが成長した」と答えています。生徒たちが最後まで諦めることなく、今しかできない挑戦に思いっきり臨むことができるように、今後とも保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

PTA総会でも報告しましたが、大阪大学に合格した生徒の一人は、模擬試験の判定が最後まで「E判定」でした。しかし、諦めず努力した結果、見事合格し、大阪大学のキャンパス内で阪大生としてこの手紙を書いています。自分でも信じられませんが、毎日夢のようにです。諦めずに闘い抜けば必ず結果は出るということを後輩に伝えたいです。」という手紙をくれました。

今春の大学入試は、全国的にみれば大学入試センター試験の出願者数が現役生1.2万人増加、既卒生が1.3万人減少というように、現役生中心の戦いでした。本校の結果ですが、昨年度半減した国公立大学の合格者は60名に増加しました。その内、現役生が47名で平成12年(2000年)以降最高の人数となりました。大阪大学には現役では普通科理系1名、国際教養科1名、既卒では普通科文系1名の計3名が合格しました。理系以外の2名は外国語学部で後期日程で合格しました。もちろん2名とも全国で13の公立大学しか実施していない中期日程も合格しています。このように、公立大学の中期日程として国公立大学の後期日程と、最後まで諦めずに挑戦したことで栄冠を勝ち取った生徒が増えました。さらに、合格してから国公立大学にするか私立大学にするかを考える生徒や、センター試験の結果、志望を下げて受験した国公立大学に合格したが、志望校に再チャレンジするために予備校を選択した生徒も出てきました。その生徒を含め、60名を超える卒業生が大きな夢を叶えようとする年の大学入試をめぐって現在も頑張っています。



進路指導部長 寺下公章

進路状況報告

進路指導部長・寺下先生より、50期生の進路状況や受験に対する心構えについて、コメントを頂きました。
今しかできない挑戦を
進路指導部長 寺下公章